

救急科(兼救命救急センター)

1 診療体制

(1) 外来の状況

6月より内科医師が内科系 Walk-in 診療を担当した。それにより救急科として1年間に診療した救急外来患者は7,710名でそのうち救急車来院患者は3,672名(三次対応681名:応需率89%)であった。

(2) 病棟の状況

救急科として退院サマリーを作成したのは519名であった。転帰は外来死亡138名、死亡退院47名、転院3名、自宅退院132名、転科199名であった。

2 診療スタッフ

救命救急センター長 川上正人(平成14.10.16～) ICU室長 肥留川賢一(平成12.4.1～)
救急科部長 河西克介(平成20.7.1～) 医師 大野孝則(平成28.1.1～)
医師 堀内弘司(平成27.4.1～)

3 診療内容

	27年度	28年度	29年度
外来患者数	15,601	14,564	7,710
直接来院	10,679	10,503	4,038
救急車	4,463	4,058	3,672
三次対応	798	738	665
ヘリ搬送	17	17	16
入院患者数	474	400	400

	27年度	28年度	29年度
心肺停止	259	241	200
急性心筋梗塞	111	85	67
狭心症	73	78	42
心不全	214	178	118
胸部大動脈解離	36	39	39
腹部大動脈瘤	6	9	4
肺炎	379	363	142
喘息	242	201	22
気胸	47	50	23
消化管穿孔	24	19	12
消化管出血	250	188	77
低血糖	59	61	50
脳梗塞	244	200	137
脳出血	125	111	80
くも膜下出血	42	38	32
外傷	3417	3355	3097
熱傷	137	137	119
急性中毒	176	162	105

4 1年間の経過と今後の目標

平成29年度も救急専従医の確保ができず、6月より内科が救急外来診療に参画して頂いた。救急外来の混雑は例年と変わりなく、特に連休中は数時間待ちが発生した。

救急外来患者数、受け入れ救急車数、三次対応の受入数はすべて減少した。二次救急車の受け入れを断る理由のほとんどが診療までの待ち時間が長く、傷病者や家族が他院搬送を希望したためであった。三次救急車を断る理由は、該当科手術中と集中治療室満床であった。

診療に追われて学会発表や論文が乏しい状態が続いている。

救急科専従医や看護師の確保が困難なため、来年度は、新病院建設に向けて救命救急センターの将来像を考えてみたい。

BSC

部署名	救急科								
ミッション	西多摩医療圏中核総合病院に併設された救急部門としての役割を果たす								
診療方針	1. 救急患者を可能な限り受け入れる 2. 救急外来診療の質と効率を向上させる 3. 入院診療の質と安全の向上をはかる 4. 臨床研修医への指導を強化する								
項目	戦略的目標	主な成果	指標	基本的手順	27年度実績	28年度実績	29年度目標	29年度実績	評価
顧客の視点	救急外来の強化	対応患者数の増加	救急車受入数	診療の効率化	4,463	4,058	前年度以上	3,672	×
			直接来院患者数	診療の効率化	11,132	10,503	前年度以上	4,038	×
経営の視点	医業収益の増加	患者数の増加	外来収益(百万円)	診療の効率化	267	263	前年度以上	136	×
			入院収益(百万円)	診療の効率化	192	152	前年度以上	115	×
内部プロセスの視点	安全の向上	レベル3以上の事故の減少	レベル3以上の事故数		0	0	0	0	○
学習と成長の視点	救急科専門医の育成	専門医・指導医の修得	専門医数・指導医数	専門医施設・指導医施設の維持	専門医1	指導医2	専門医1	専門医1	○

救急救命士

本年度は途中で退職者があり、5名で下記の業務を行った。

- ① 災害時用医療支援車両 (DMAT CAR) の運用維持
- ② 救命救急センター外来入院診療の補助
- ③ 院内全職員対象の心肺蘇生法講習会実施
- ④ 救急救命士の技術維持研修

